旧合併町における現状と課題について

目　次　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ページ

１　合併の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
２　人口の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３～４
３　高齢化率の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
４　旧合併町における現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６～９
（地域住民の声を踏まえて総合事務所等が把握する現状・課題）
（１）人口減少（少子高齢化）
（２）居住環境
（３）公共施設・公共サービス
（４）防災・安全安心
（５）公共交通・道路
（６）有害鳥獣等による被害等
（７）産業・就業環境
５　【参考】旧合併町の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10～14

南総合事務所・北総合事務所

令和７年５月

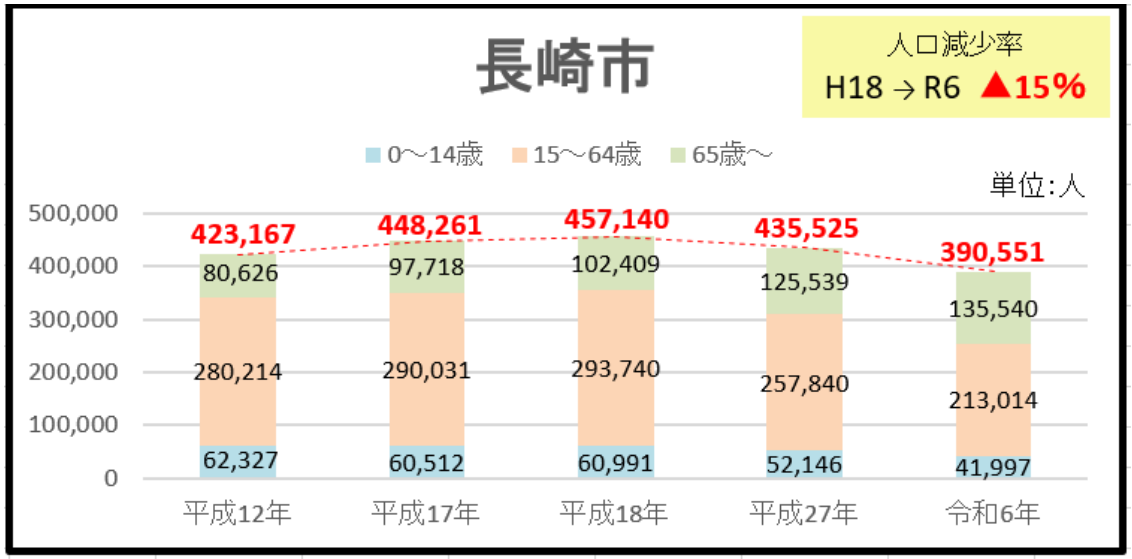
1　合併の概要

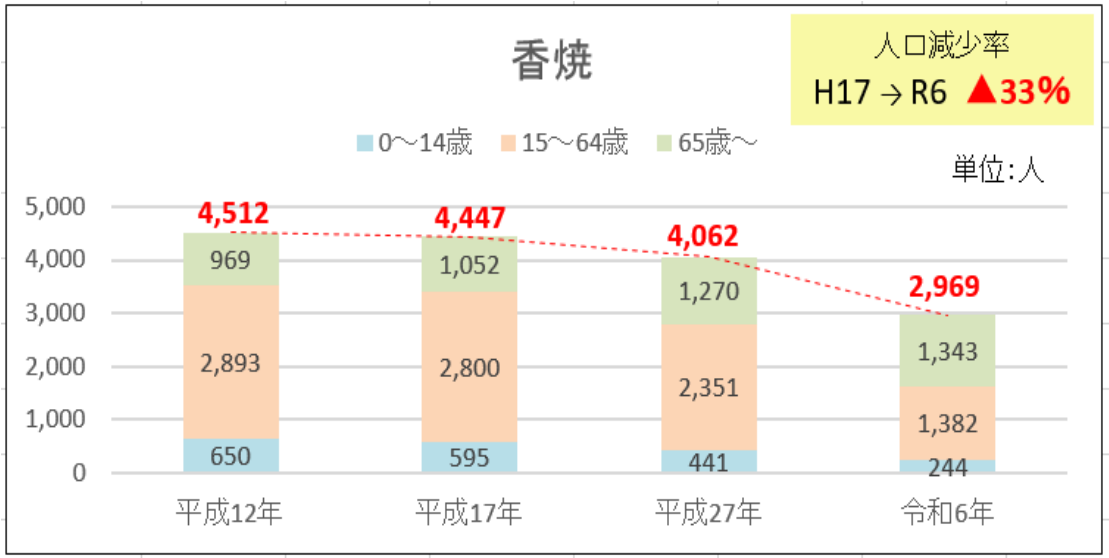
「平成の合併」は、市町村の合併の特例に関する法律（旧合併特例法）及び市町村の合併の特例等に関する法律（現行合併特例法）に基づき、国・都道府県の積極的な関与により、人口減少・少子高齢化等の社会経済情勢の変化や地方分権の担い手となる基礎自治体にふさわしい行財政基盤の確立を目的として推進された。

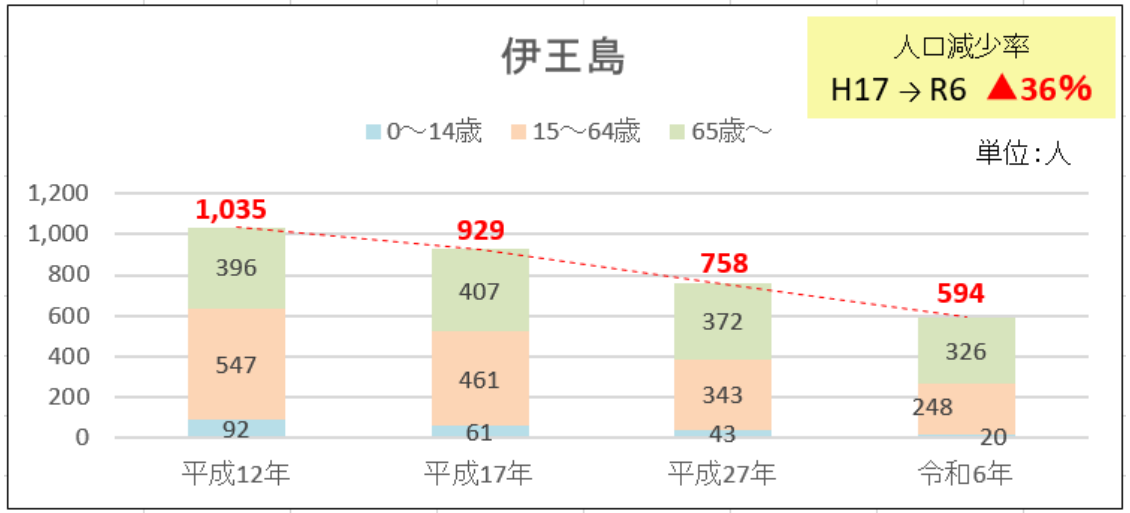
長崎市においても、将来の人口減少・少子高齢化等社会経済情勢の変化や地方分権などを勘案した結果、平成17年1月4日に香焼町、伊王島町、高島町、野母崎町、外海町、三和町と、さらに平成18年1月4日には琴海町と合併し、現在の長崎市となった。

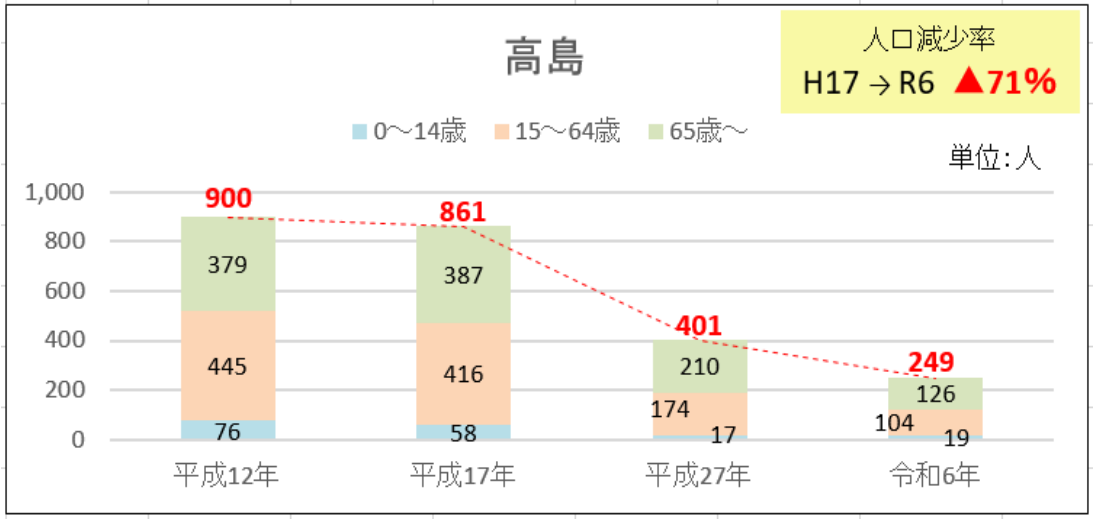
２　人口の推移

人口データ　**平成12年**：10月1日付（国勢調査）
平成17・18年：1月4日付（住民基本台帳）
平成27年、令和6年：12月31日付（住民基本台帳）による

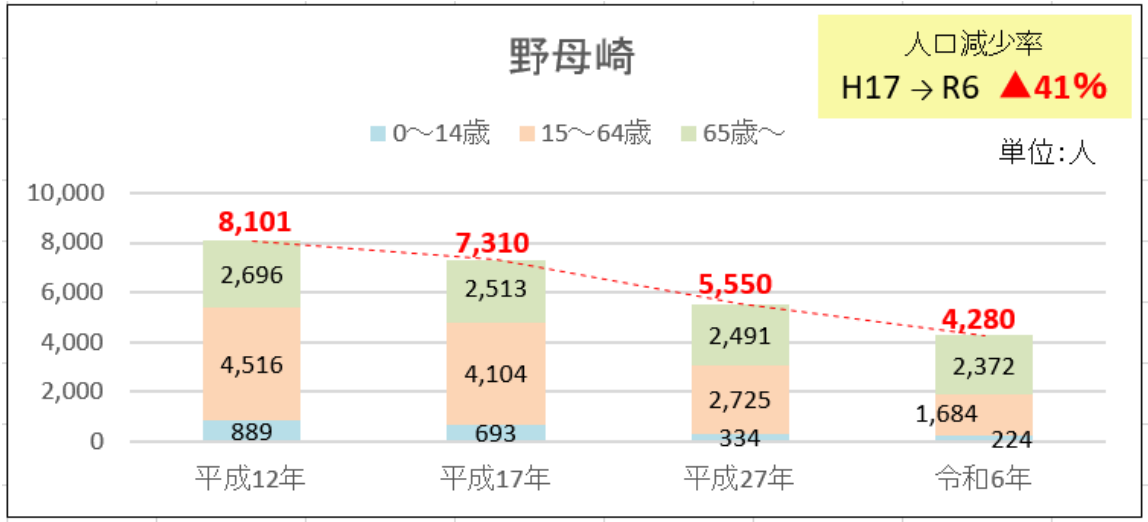


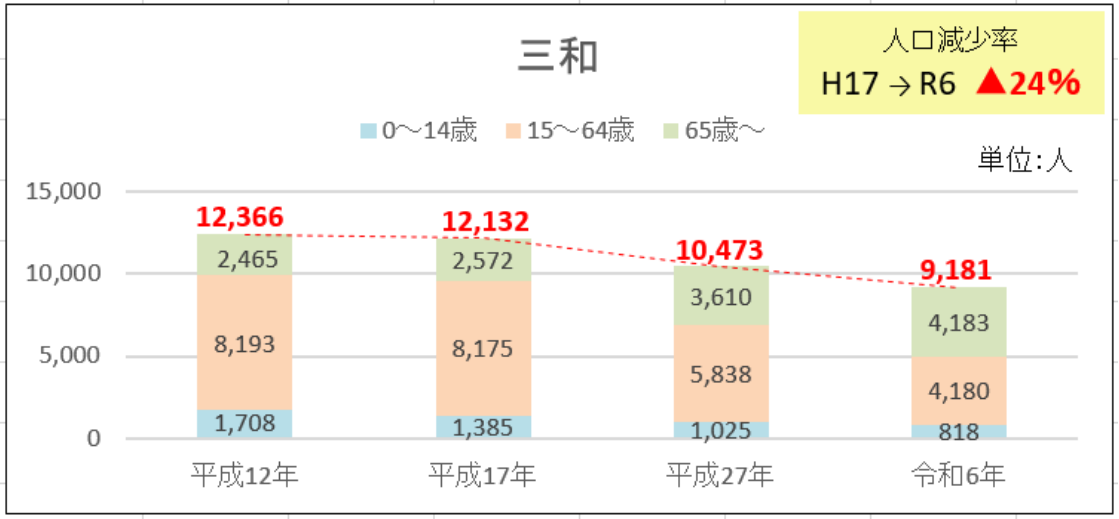


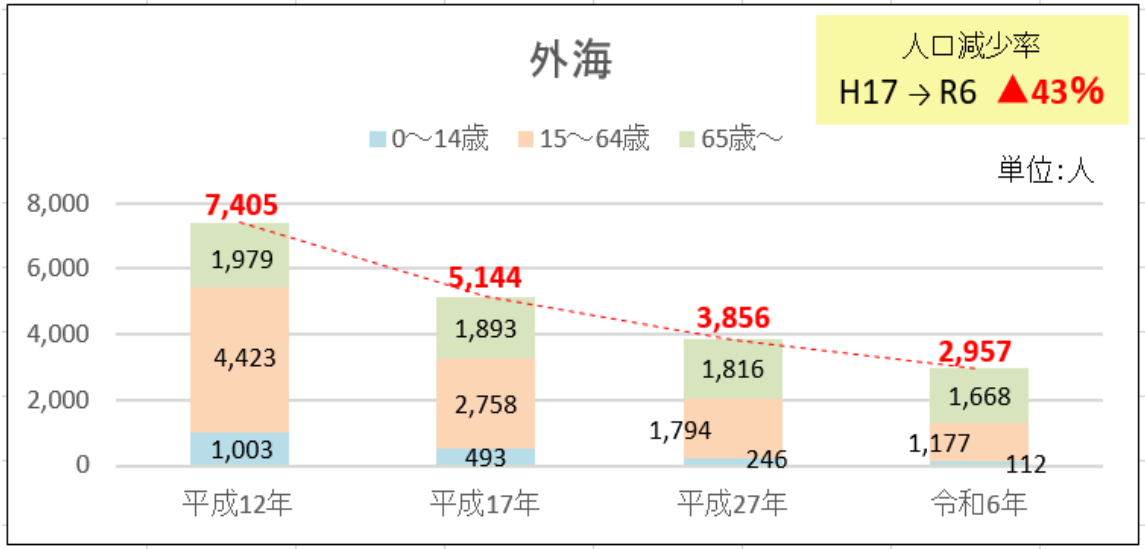


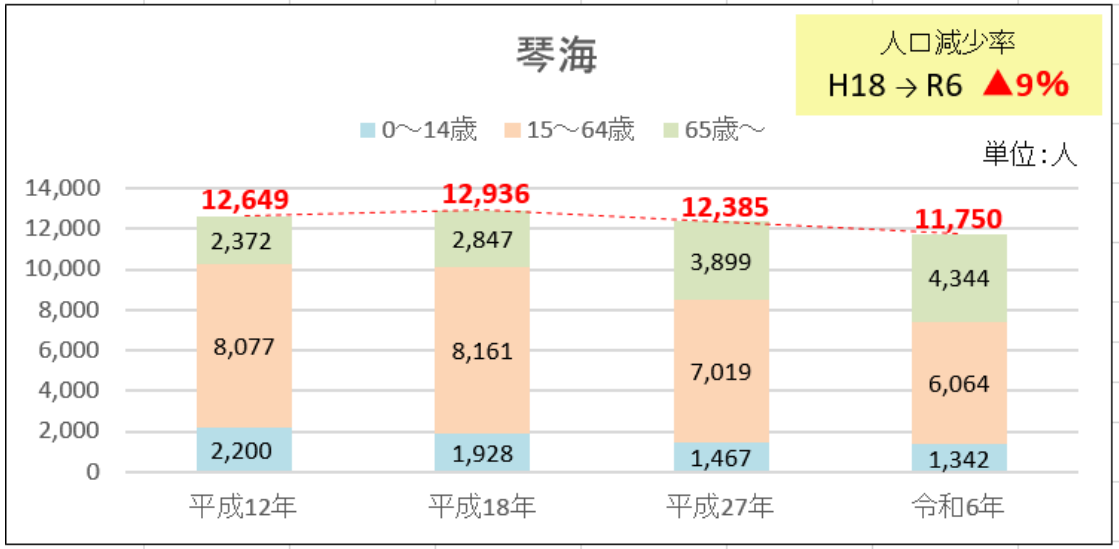


２　人口の推移


野母崎
人口減少率
H17 → R6 ▲41%
0～14歳
15～64歳
65歳～
単位:人
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
8,101
7,310
5,550
4,280
2,696
4,516
889
2,513
4,104
693
2,491
2,725
334
2,372
1,684
224
平成12年
平成17年
平成27年
令和6年


三和
人口減少率
H17 → R6 ▲24%
0～14歳
15～64歳
65歳～
単位:人
15,000
10,000
5,000
0
12,366
12,132
10,473
9,181
2,465
8,193
1,708
2,572
8,175
1,385
3,610
5,838
1,025
4,183
4,180
818
平成12年
平成17年
平成27年
令和6年


外海
人口減少率
H17 → R6 ▲43%
0～14歳
15～64歳
65歳～
単位:人
8,000
6,000
4,000
2,000
0
7,405
5,144
3,856
2,957
1,979
4,423
1,003
1,893
2,758
493
1,816
1,794
246
1,668
1,177
112
平成12年
平成17年
平成27年
令和6年


琴海
人口減少率
H18 → R6 ▲9%
0～14歳
15～64歳
65歳～
単位:人
14,000
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
12,649
12,936
12,385
11,750
2,372
8,077
2,200
2,847
8,161
1,928
3,899
7,019
1,467
4,344
6,064
1,342
平成12年
平成18年
平成27年
令和6年

３　高齢化率の推移

（65歳以上の割合）

地区	平成12年	平成17年	平成18年	平成27年	令和6年
長崎市	19.1%	21.8%	22.4%	28.8%	34.7%
香焼	21.5%	23.7%	24.7%	31.3%	45.2%
伊王島	38.3%	43.8%	44.8%	49.1%	54.9%
高島	42.1%	44.9%	47.1%	52.4%	50.6%
野母崎	33.3%	34.4%	35.2%	44.9%	55.4%
三和	19.9%	21.2%	22.0%	34.5%	45.6%
外海	26.7%	36.8%	37.3%	47.1%	56.4%
琴海	18.8%	22.3%	22.0%	31.5%	37.0%

４　旧合併町における現状と課題

（１）人口減少（少子高齢化）

①	高齢化や自治会加入率の低下などで、地域活動の担い手やまとめ役である会長等のなり手が減少する中、地域活動の支援については、地域コミュニティ連絡協議会の設立などを進めており、引き続き、支援を行っていく必要がある	全地域
②	地域の祭りや行事を廃止、縮小している地域があることから、地域活性化に向けた支援をより効果が上がるよう検討していく必要がある	全地域

（２）居住環境

①	民間賃貸のアパートや利用可能な空き家が少なく、市営住宅についても安全な居住環境を確保するための集約化が進められている状況であり、空き住戸を移転用住戸として利用していることから、活用できる安全性が確保された住宅が少ないという現状がある	高島
②	人口減少に伴い空き家が増加傾向にある。空き家になる前から住まいの将来を考えるように住まいの終活といったことを周知し、空き家を活用する必要がある	全地域

４　旧合併町における現状と課題

（３）公共施設・公共サービス

①	公共施設の老朽化が進んでおり、未利用施設の除却等が進んでいない	全地域
②	２歳児未満を預けられる施設がないため、働きながら子育てしたい世帯は、島外へ転出する傾向がある	高島
③	廃校となった小学校の利活用方法が未定であるため、利活用の検討を進めていく必要がある	野母崎・琴海

（４）防災・安全安心

①	台風時に防波堤を越波した海水が、住宅敷地内まで流れ込んでいる状況である	高島
②	老朽危険空き家が存在しており、その対策が必要である	全地域

４　旧合併町における現状と課題

（５）公共交通・道路

①	利用者の減少等により、路線バスの減便及び廃止が進んでいる現状がある	野母崎・三和 琴海
②	伊王島大橋の架橋により船着場駐車場の利用者が増加したため満車となることが多く、島民が駐車して船に乗ることができない。また、日常的に路上駐車がみられるという現状がある	伊王島
③	船舶運賃や車両等の輸送費が高く、住民の大きな負担となっているとの意見がある	高島
④	主な幹線道路が国道のみであり、災害や事故の時は迂回路（県道・市道等）が渋滞することから、災害等に強い道路網の構築が必要である。また都心部や地域拠点とのアクセス向上を図るための幹線道路の整備が必要である	野母崎・三和・外海・琴海
⑤	伊王島大橋の架橋により車で訪れる観光客が増加したが、狭隘な路幅で離合困難な路線が多いという現状がある	伊王島
⑥	住宅の多くが斜面地に形成しており、生活道路の幅員が狭いという現状がある	香焼・三和

４　旧合併町における現状と課題

（６）有害鳥獣等による被害等

①	イノシシ等による農作物への被害が継続している	伊王島・野母崎・三和・外海・琴海
②	イノシシが地面を掘り起こし、一部では家屋や道路への被害が発生している	香焼・伊王島・高島・野母崎・三和
③	野良猫が繁殖し、糞尿被害が著しく、住民同士のトラブルに発展しており、今後も対策を講じていく必要がある	高島

（７）産業・就業環境

①	世界遺産を含めた観光資源がうまく活用されていない。現地までのアクセス手段・現地でのルートの整備のほか地元住民との意見交換の場が必要である	外海
②	後継者不足により、第一次産業の就業者が減少している	野母崎
③	農業の担い手が不足している。農業の魅力発信及び新規就農者への支援制度の周知、支援制度の拡大を検討する必要がある	琴海

【参考】旧合併町の概要

【南総合事務所管内】　ページ

１　旧香焼町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

２　旧伊王島町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

３　旧高島町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

４　旧野母崎町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

５　旧三和町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

【北総合事務所管内】

６　旧外海町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

７　旧琴海町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

【南総合事務所管内】

１　旧香焼町

長崎港の入口に位置し、市中心部まで約１０ kmという近距離にある。元来は、島であったが昭和４６年に完成した長崎外港埋立てにより長崎半島と陸続きになり、東西３．７ km、南北３．４ km、面積４．５１㎢で三方を海に囲まれ、工業用地などの海岸部の埋立地を除き、平地に乏しく、中心部には、高さ１００ｍ前後の遠見岳、高岳及び天神山などの山々が連なり、海岸線は、北東部から北西部にかけて、彦四郎鼻、馬の背鼻、玄牛鼻などの岬により変化に富んだ海岸線を形成している。

もともと香焼島、蔭ノ尾島の２つの島から構成され、廃藩置県後の明治５年に長崎県の管轄となり、深堀村に合併していたが、明治１２年の郡制施行により、西彼杵郡の管轄下におかれ香焼村となり、明治２２年の町村制施行により、再び深堀村に編入され、深堀村大字香焼となった。その後、明治３１年に深堀村から分村し、昭和３６年の町政施行により香焼町となる。

２　旧伊王島町

長崎港の入り口に位置する伊王島と沖之島の２島で構成される地域であり、２島の間には３つの橋が架かっている。平成23年3月に伊王島大橋が沖之島と香焼の間に架橋されたことで本土化された。

昭和16年に開坑した炭鉱は昭和47年に閉山。町制施行は昭和37年で、人口が約7500人（過去最大）であった。閉山後人口が激減し過疎の町となる。リゾートの島として振興を図るため平成元年にルネサンス長崎・伊王島が開業したが平成14年に閉鎖した。そのホテル施設を当時の町が取得し、平成15年に「やすらぎ伊王島」としてオープンした。平成17年1月の長崎市へ編入合併。「やすらぎ伊王島」は平成29年に市からカトープレジャーグループに売却され、現在は「i＋Land nagasaki（アイランドナガサキ）」という施設名称で運営されている。

【南総合事務所管内】

３　旧高島町

高島地区は、長崎港から約14.5ｋｍに位置し高島、端島、中の島、飛島の島からなっており、夏季は南東風と南風、冬季は北西風と北風が多く、冬季・台風時の海上交通は影響を受けやすい。

安土・桃山時代から佐賀藩鍋島家深堀領に属し、明治12年に西彼杵郡高島村となり、昭和23年に町制が施行された。旧高島町の主要産業である炭鉱は、昭和49年に端島炭坑が閉山、高島炭坑も昭和61年に閉山し、人口は激減した。

現在、唯一の有人島である高島は、美しい海を活かし、飛島磯釣り公園、高島海水浴場、高島ふれあいキャンプ場などが整備され、気軽にリゾート気分が味わえる島として、また、世界文化遺産がある町として認知されてきている。

４　旧野母崎町

長崎半島の先端部に位置し、北は三和地区に隣接している。西北は五島灘を経て、遥かに五島列島を望見し、南西は広大な東シナ海を、東は橘湾、天草灘を望んで島原半島及び天草灘と相対し、三方を海に囲まれている。また、地区内海岸から学術的に価値の高い、多種多様な恐竜の化石が発見されている。

昭和30年4月に高浜村、野母村、脇岬村、樺島村の旧４か村が合併して旧野母崎町が誕生し、野母漁港をはじめ、樺島漁港、野々串漁港、古里港、脇岬港など多くの良港を有し、水産業を中心に発展した。

平成26年４月に4地区の小学校が併合し、野母崎小学校となり、野母崎中学校との小中一貫校「青潮学園」として再編された。

令和３年10月には、恐竜博物館を中心とした恐竜パークがオープンし、長崎半島地域における新たな賑わいを創出している。

５　旧三和町

三和地区は、北部に寺岳、松尾岳などの標高３００～４５０ｍの山系が、南部に秋葉山、熊ノ岳などの標高２５０～３００ｍの山系がそれぞれ連なっており、また、険しい海食崖と浜堤が交互に入りこんだ海岸線を形成しており、緑の山々と青い海に囲まれた自然豊かな地区である。

町村合併促進法に基づき、昭和３０年２月１１日に川原村、為石村及び蚊焼村の３カ村が合併し、旧三和町が誕生した。その後、昭和５２年に「椿が丘団地」、昭和５６年に「晴海台団地」がそれぞれ完成し、長崎市のベッドタウンとして発展した。

【北総合事務所管内】

６　旧外海町

外海地区は、市の北西部に位置し、東は琴海地区、南は三重地区、北は西海市に隣接し、西は角力灘に面している。

外海地区は、昭和30年に神浦村と黒崎村が合併し外海村に、昭和35年の町制施行により外海町となり、平成17年1月に長崎市に編入され、現在に至る。地区内は、キリスト教の歴史が文化的特質の一つとなっており、平成30年7月には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録された。

また、恵まれた海、山、川などの豊かな自然や独特の風土、平成13年に閉山した池島炭鉱施設を活用した体験型観光、世界文化遺産や遠藤周作文学館などの文化施設を活用することなどで、交流人口の拡大による活性化を図っている。人口減少が進んでおり、特に、地域の基幹産業があった池島の人口減少が著しく、本土地区の神浦、黒崎両地区においても、若年人口の流出が続いている状況である。

７　旧琴海町

琴海地区は、市の最北部に位置し、西は外海地区、南は三重地区や時津町、北は西海市に隣接し、東は大村湾に面している。

琴海地区は、戦国時代末期より明治時代に至るまでの300年間、大村藩に属していた。昭和34年に長浦村と村松村が合併し琴海村に、昭和44年の町制施行により琴海町となり、平成18年1月に長崎市に編入され、現在に至る。地区内は、長崎市で唯一大村湾に面し、沿岸にはゴルフ場やホテルなどが整備されるなど、スポーツ・レクリエーションの拠点となっている。主要産業はいちごをはじめ、ミニトマトや長浦すいかなどの農業であり、ホタルが生息する河川があるなど、豊かな自然環境に恵まれている。